

正月合宿報告書(2010.12.29 ヤー 2011.1.2)

南アルプス：戸台～鋸岳～甲斐駒ヶ岳～北沢峠～仙杖岳～北沢峠～戸台

メンバー：上坂(L).津田.小泉.八十島.谷口.鎌田.佐藤

12月30日 晴れ/曇り

戸台駐車～戸台川～角兵衛沢出合～角兵衛沢～2200m 付近幕営～2400m 付近幕営

合宿初日、戸台の駐車場にて荷物をパッキングし、7:00 ごろ出発。メンバー総勢7名で、戸台川の右岸をつめてゆく。

30分ほど歩くと、徒渉ポイントに付く。昨年までは無かったアルミ梯子の橋が川に渡してある。一本目の橋を順調に渡り、二本目の橋を先頭の津田さんが渡りかけたとき・・・、橋がぐら付き、橋表面の氷に足を滑らせた津田さんは、川面へ半身を突っ込む。それを見た後続は冷静に方向転換し、別の渡渉ポイントを探す。津田さんは、一人とぼとぼと、ずぶ濡れの体を川から引き上げる。全員対岸に渡り、津田さんの体を乾かすため、焚き火を準備する。高校教師2人組みがあつという間に火を起し、おのおの濡れた手袋や靴を手にし、津田さんは尻を突き出し、一時間ほどで何とか乾かすことができた。津田さんによると、戸台で濡れたのは3度目らしい。きっと、そういう場所なのだろう。

気を取り直し、戸台川を進んで行く。左岸に移り、だらだらとした河川敷をつめる。

角兵衛沢出合で戸台川を後にし、角兵衛沢の急坂に取り付く。鎌田さん、谷口さんは大きな荷物を背負い、ゆるゆると登ってくる。荷物の中身は、白菜だったり生卵だったり、年越しそばだったり・・・。八十島もやや遅れ気味。上坂さん、津田さん、小泉さん、佐藤さんはぐんぐん登って行く。大岩には先客が幕をすでに張っている。こちらを素通りし、さらに上の幕営予定地を目指す。

ガレた斜面を詰めてゆくと、右からの沢が降りてくる2200m付近に、前回幕営したポイントではないかと思われる雪が付いた斜面が現れる。しかし、今回は雪の付が悪く、掘り出して整地するには雪が足りない。仕方なく、枯れ木を土留めにして雪を留め、その上に雪を積み、整地する。全員での土木工事でなんとか整地し、テントを広げると、4・5人用エスパースは張れたが、2・3人用エスパースはスペースが足りず、ずり落ちそうである。

上の状況を視察してきた上坂さんから、前回の幕営地はさらにこの上だったとの報告を受ける。しかたなく、2・3人用エスパースは上に張ることに。4・5人用に鎌田さん、谷口さん、佐藤さん、小泉さんを残し、上坂さん、津田さん、八十島でさらに登る。上の幕営地は2400m付近で、同じく右から沢が入った斜面にたつぷりと雪が付いている。整地を済ませ、テントを張り、ようやく中へ入るころには、周囲は暗くなっていた。

(八十島)

12月31日 晴れ

昨日テント場が小さく2張分の場所が確保できないことから止む無く2隊に分けていた。今日は、5:00に出発し5:30に合流、その後甲斐駒ヶ岳を越えて駒津峰まで行く予定だ。

3:00時に起床し、朝食と準備を行う。

5:00出発

暗い中ヘッドランプを頼りに急峻なガレ場を登る。朝一からの登りはさすがにこたえる。

5:40少し遅くなったが、無事に合流しそのまま稜線を目指しガレ場をつめる。

8:00 鋸岳 第一高点からの甲斐駒ヶ岳がみえる。ここで一服しそれぞれ準備を行う。



9:20 第二高点付近

小ギャップを懸垂で下降し、その先はロープを出して進んでいった。懸垂直後のコルは風が強くまたかなり冷え込んでいる。ともかく動かないと寒くても立ってもいられない。上り返した先は、鎖の続く足場の悪い道が続く。その先に鹿窓と呼ばれる岩穴があるが、冬季は左側を登ってゆく。

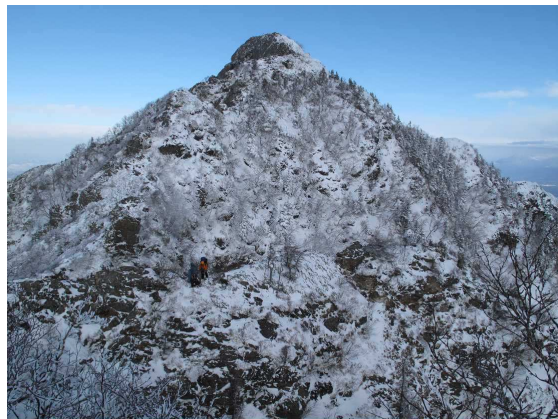
11:30 中ノ川乗越を前に休憩を取る。

一度大きく下ってから、また上り返す。

14:30 三ツ頭の辺りで時間は既に

14:30頃、ここから甲斐駒ヶ岳はあまりに遠い。上坂(L)の提案で6合目石室を本日の宿泊場とすることとした。

この辺りから特に踏み後が無くラッセルをすることになる。



私の予想と違い意外と6合目は遠い。甲斐駒ヶ岳はこれだから面白い。ラッセルと寒風の中、さらに2時間進んだ所でようやく石室を発見する。我々の他に1パーティ石室に入ってきた、気さくな2人組みで仲良く共同利用することとなった。

18:00 天気予報を聞いていると、その後紅白歌合戦の話がラジオから流れた。今まで気付いていなかったが今日は年越しだった。谷口さんが蕎麦を用意しており年越しの蕎麦を頂いた。明日は、甲斐駒ヶ岳を抜けてどこまでいけるか楽しみだ。(小泉)

2011年1月1日(土)

3:40 起床—6:30 スタート(六合目石室)—10:00(甲斐駒ヶ岳)—11:00(駒津峰)—
12:250(双児山)—14:00(北沢峠)—15:10(幕営地2合目)

正月を山で迎えられ感慨深いものである。実は山で迎える正月は人生初である。

早朝 3:40 頃に起床し、朝食を済ませ出発の用意をする。小屋の中のため、準備も助かる。また外の様子も悪くないようだ。

準備が出来ている雄大と一足先にスタートした。美しい朝焼けに向いながら、目印となる地点まで戻ってみた。そのまま稜線上に進もうとするが、少し違うようだ。再度、石室方面に向い途中あたりから左へ進んでいった。マーキングと微かなトレースを頼りに進んでいく。

雲は少ないが、甲斐駒ヶ岳山頂ははっきり見ることができない。徐々に冷たい風が頬をさす。バラクラバを深くかぶった。

小ピークを幾つか越え、20m ほどのクサリ場に出た。まずは雄大がフリーで越える。ザイルを出すまでではなく、お助けで後続者が登っていく。津田君が上部にて後続者のフォローに付く。日当たりもなく、吹きさらしのため身体が冷え込む。途中で自分が交代した。

全員が登り、更に進んでいく。バラクラバは凍りつき、呼吸も苦しくなり、下げ上げの繰り返しだ。長く感じる道のりを越え、やっと甲斐駒ヶ岳山頂に着いた。周辺上部は雲に覆われているが、下界ほど晴れている。集合写真を撮り、そうそうと下山を開始した。駒津峰まで降りて行くと、これから甲斐駒に向うガイドパーティーなどとすれ違う。振り返れば、山頂付近は更に厚い雲に覆われていた。早めの登頂でよかった。そこから双児山に向うが、直ぐにラッセルが始まる。こちらではなく、仙水峠経由がいいのではないかと呟く。小泉がいつもの調子で大した距離もなく、簡単ですよと返答する。これも後から相変わらずなやつだと感じる。

正月とはいえ、ほとんどこのコースを使う人はいないようだ。深いラッセルとなり、苦勞した。双児山を越えたところで、4人ほどのパーティーがやってきた。助かった。北沢峠からはかなりの距離だ。あとは順調に下って行き、北沢峠に着いた。

ここで確認しておきたいことがあった。各自の体調だ。谷口さんは昔やった指が凍傷気味、八十島さんはバテ気味のため、仙丈ヶ岳のパーティー編成を視野に入れておいた。予定のルートでは予備日を使う恐れもあり、各自に申し入れる。本来、別行動は好ましくないが、残りの行程と、今まで敗退続きとなっている正月合宿を成功させるために、隊を分けた。

アタック隊：上坂・小泉・佐藤

下山隊：津田・八十島・谷口・鎌田

アタック隊は、時間も考慮して、小仙丈に向う2合目辺りで幕営することとした。

下山隊はこの付近で幕営するが、谷口さんはもう嬉しそうな(飲める)顔をしていたのが印象的だった。(上坂)

1月2日 晴れのち快晴 南東の風 風速25m/s

3:30 起床

夜中から風が吹き始めたらしく天場周辺の木がざわついていた。しかし、前日に天場をきちんと作ったおかげで快適な夜を過ごせた。もっとも、無駄に持ってきた防寒具と、小泉さんが貸してくれた象足のおかげではあるのだが。上坂さんはあまり眠れなかったらしい。朝食を食べ出発の準備をする。

5:30 出発

テントを撤収していると2人パーティーが登ってきた。挨拶を交わし、準備をして出発。風が強く、樹林帯を抜けた稜線がとても心配になった。天場より標高が高いのももちろん風は強くなる。さらに防風の役割をする樹木がなくなるので風は体を直撃だろう。

出発の時点で今日の登頂は正直あきらめていたが、小仙丈ヶ岳まで行ってから判断することに。登っているパーティーは先ほど挨拶したパーティーと僕たちが先行組のようだ。

途中で追い越し、そこからは先日のトレースをたどっていく。大滝の頭付近で1本立てるつもりだったのだが来た道を少し戻り、稜線の影になるところで1本立てた。相変わらず風は強く、のどが痛い。大滝の頭を越えてからはトレースが消えており、ラッセル大会となった。3人でトップを交代しながら進む。トレースはうっすらと残る程度でほとんど埋まっていた。小仙丈ヶ岳までの稜線がかなりきつかった。真横からふく風は目出帽を凍らせていくし、指先はかなり冷えていたが、それ以上に僕の心をへし折った。

小仙丈ヶ岳山頂

仙丈ヶ岳へと延びる稜線は雪煙が舞っていた。しかし天気は少しづつよくなってきている。山頂でひとまず様子を見ることに。ここで精神的にやられていたがとりあえず記念撮影。待てば待つほど天気がよくなっていく。準備をして出発する。僕は全力で行きたくなかったが。しかし、歩き始めると風も少しマシになり、天気がよくなってきた。目の前に見えるピークをひとつひとつ越えていくと少しづつ山頂らしきものが見えてきた。前には他のパーティーはいない。僕らのパーティーが先頭のように。仙丈ヶ岳への最後の登りをトップで歩かせてもらう。

仙丈ヶ岳山頂着 10:00

これで正月合宿は完結に1歩近づいた。後は無事に下山するだけ。正月合宿は上坂さん無しには完結することができなかつただろう。本当に感謝である。丹溪新道を下るつもりだったが、トレースは見えぬ雪も深いのでこれはとんでもないことになるだろう。ということであつた道を戻る事にする。

北沢峠 12:00

下山はとても早かつた。2時間程で下ってしまったのである。下山中の天気は快晴。おそらく僕らは今日一番条件の悪い中の登頂だつたようだ。あとは八丁坂と長い戸台川の川原を下るのみである。とても長い。しかし蝸牛山岳会の合宿は簡単には終われないらしい。戸台の駐車場に到着、いざ帰ろうというときに津田さんの車のバッテリーが上がってしま

った。これが車1台だったら面倒なことになっていたに違いない。
今回の合宿の教訓として、自分の中での課題を見つけることができた。これからその課題をクリアできるような山行をして行こうと思う。
あと、車を持っている方はバッテリーケーブルの新品を常備するようにしましょう。
(佐藤)



甲斐駒ヶ岳山頂にて

